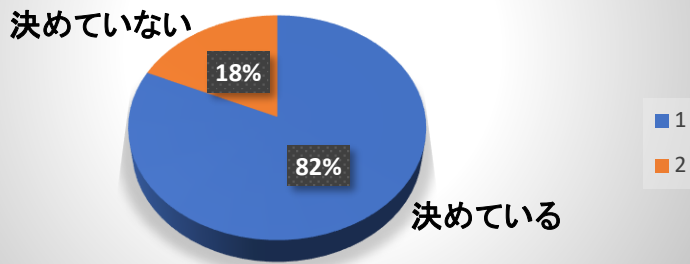


# 防災アンケート集計結果

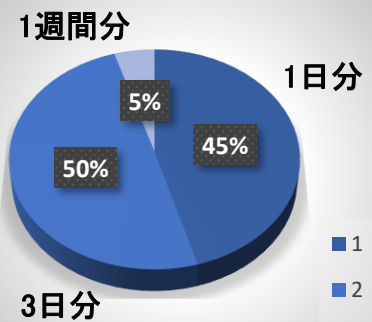
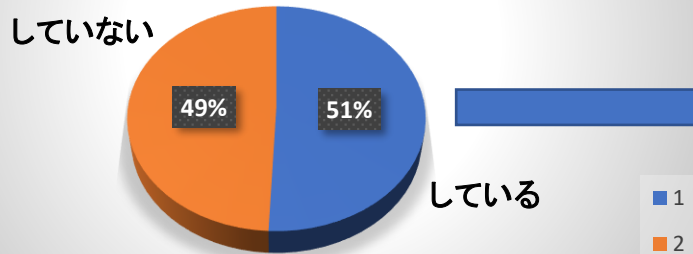
2020年11月実施

回収率 66.1% (498人中329人が回答)

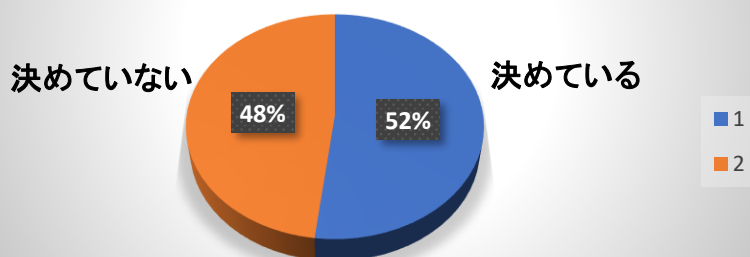
問1. 家庭で避難する場所を決めていますか



問2. 備蓄品を準備していますか



問3. 被災後、家族が集まる場所を決めていますか。



## 【防災アンケート 保護者の声】

(2020年11月実施)

問4. 防災について話し合った感想や、南海トラフ地震で心配なことを教えてください。

- 津波が何より怖い。また、家族とバラバラになることや、仕事を優先することなど、心配なことはたくさんある。
- 家族が離れているとき、まず自分の身を守る努力をするよう、話をしました。まず命。
- 自ら進んで動ける力を身につけてほしいと思いました。実際に地震が起こらないと分からないが、家の裏が川なので、津波の影響をどの程度受けるのかが心配です。
- 地震の規模・津波の高さ・避難場所まで逃げられるか
- 春夏秋冬、朝昼晩夜、いつ起こるか分からない災害のため、持ち物(防災グッズ)も季節によって違いがあり、年に何回か見返しています。TPOに応じて判断力が問われるので、常に危機管理能力を高められるよう、家族間で意見交換したいです。
- 家族が活着ているかどうか。
- 家族がバラバラになるかも知れない。
- 家族・親族らの安否、食料や物資不足。
- 学校に居るときに、地震が起これば、学校で避難することを確認しました。
- 親が仕事から帰ってきていない子供だけの時間の時に地震が来て、子供だけで逃げられるのか心配。避難場所まで津波が来る時間までに逃げられるか、とても心配。
- 津波から逃げることができるか心配。
- 津波が怖いので、平日、学校、仕事の場合、なるべく高い建物へ避難するよう話合っています。近所にはお年寄り(自分の曾祖父母)もいるので、耳が聞こえないので大きな声で呼びかけもする等配慮が必要です。
- 津波が心配、ペットが心配。
- 南海トラフ地震で心配なことは津波です。津波で家が流されるのと、家族がバラバラになることが一番心配に思うことです。
- 防災について考えることは必要であると感じながら、なかなか家族で話し合うことができずにいましたが、良い機会になったと思います。
- 登下校中に震災に遭った場合、自分できちんと判断して避難できるか心配。
- 津波
- 海際に住んでいるので津波が心配。地震後、すぐ安全なところまで逃げるには、どこを通れば良いか不安を感じる。
- 両親が辰巳工業団地で仕事をしているため、那賀川の橋を渡ることができるか不安。集合場所は決めているが、いつ集合できるか分からない。
- 命は自分で守る
- 必ず避難場所へ集合を心がけるが、各自、その場で考えて行動を！自宅が海に近いので、津波が怖い。
- 備蓄品の準備をしっかりしようと思います。津波がどのくらい大きいか心配です。
- まずは自分の身を守る。

○家族それぞれがどこに居て被災するか分からないので、ためらわずに自分の助かる方法で逃げる。

○家から近いので避難場所(集合場所も)南小に決めているが、津波があつたら南小も危険かな?とも思っている。調べてみると、松高は避難場所に指定されてないようだったのですが、津波があると一応松高を集合場所として皆で集まるようにするつもりでいる。

○現実として考えられないので避難場所もはっきり統一できていないし、備蓄品も水のみしか準備できていない。家族でもっと話し合う必要があると感じた。難関トラフ地震は近い将来必ず発生すると言われているが、そこまで深くは考えていない人が多いように思う。もう少し詳しくしておくことや、準備する物など教えてもらえたらと思う(例えば毎月○日は「防災の日」として情報を発信していくとか)。

○避難場所が近所に何か所かあるが、人口の割合に対して収容人数が少ないなあと思いました。コロナのこともあり、避難場所をどこにするか、決まりません。

○津波

○こんなことになるとは考えもしなかったと自失しないために、今できることを始めなければいけないと思いました。

○学校、自宅、職場以外の場所にいたときに、どこにどう逃げればいいのか、その判断ができるのだろうか心配です。

○近いうち南海トラフ地震が来るので心配です。きちんと逃げられるか、とてもこわいです。

○心配なことは、親が2人共に勤務地が小松島市外なので、すぐに子供たちと連絡をつけることができないかもしれないこと。

○避難場所において津波が到達しても大丈夫かどうか、など。

○子供が自分を探したり迎えに来たりしないようにと言われて、理由などを聞いて納得しました。家は耐震や免震対策をしているので大丈夫だと思いますが、想定外のことがいろいろ起こっていますので、津波も大きくなると怖いなあと思います。もう一度ちゃんと話し合っ、備蓄なども準備しようと思いました。

○防災用品等の大切さを話し、日頃の備えの大切さを再確認しました。

○いつ起こるかが分からないことが不安。その時々で個々にベストな行動ができるよう、日頃から防災の知識を高めておく必要があると感じました。

○それぞれ職場、学校に居るときに被災したら、どうやって集まるのか?どう判断したらいいのか?コロナとインフルエンザ流行と避難は何が優先すべきか?

○備蓄品を準備しておくこと、一人で居るときに地震に遭ったときが不安。

○家の近くの勝浦川が氾濫することが心配。地域のおじいちゃん、おばあちゃんと逃げられるかが心配、改めて防災バッグや被災後の集合場所を決めようと思った。

○自宅で被災した場合、近くに高さのある建物が少なく、津波の規模が心配。

○海の近くに住んでいるので、南海トラフでの津波はとても恐ろしい。

○家族が離れた場所で被災した場合、合流できるかが心配。子供が学校に行っている日は連絡手段がないので、特に登下校中など気がかりである。

- 逃げる場所を考えておく。
- 今居る場所からだったらどこに逃げるかなど。日赤、松中など高い建物にシューズで逃げる。
- 電話ができないし、食料がなくなったとき。
- 家で一人で居るとき、逃げられるか心配。
- 想定よりも(高い)津波が来るかもしれないのが心配です。
- 防災のビデオを見て率先避難者たれということがとても大切だと思いました。話し合っ  
て避難場所が決まってないので、早く決めておきたいです。
- 気をつけないといけないなあと話しました。
- 率先避難者になることは大切だが難しい。でも南海トラフ地震のような大きな地震は、  
今までとは違うことにすぐ気づき、避難すべき判断はつくと思っています。ただ、家の付  
近に高いところがなく、山などに行くまでの道も通れる状態にあるのか心配です。避難場  
所も本当にそこでいいのか、ずっと迷っています。
- 津波がとにかく怖いので、30分以内に避難できるのかということや、飼っている猫とど  
うすれば一緒に避難できるのか、また家族一緒に避難できるかは分からないので、うまく  
再開できるのか、いろいろ心配です。
- 南海トラフ地震は震度6強～6弱、太平洋沿岸の広い地域に10mを超える大津波が想定  
されているということです。想像を絶するものがあります。何より守るべきは命だと思  
います。心配は尽きませんが、地域で一番頑丈で非常事態に備えられる、医療機関を集  
合場所に選びました。
- 津波の被害や被災したときの生活。
- きちんと決めます。
- 備蓄品を早く準備しておかないといけないと思いました。被災後家族が集まる場所な  
ど子供と話ができて良かったと思います。
- 津波が心配。
- 地震が起こったときどこに居るかによって避難場所も変わるので、きちんと判断ができ  
るように日頃からよく話し合っておく必要があると思います。
- 家で居るときは祖父祖母と一緒に指示に従って身の安全を守るように。
- 家から海岸が近いので津波が心配。
- 日中、仕事や学校に行っているため、それぞれがばらばらになることが心配。被災後に  
家族が集まる場所を決めなければと思った。防災リュックにも数日分も備蓄品がないな  
と思った。改めて家族で話し合わなければいけないと思った。
- 津波から避難すること、地盤沈下による家屋等の倒壊。
- 津波が心配。
- 地震が日中に起きた場合、両親共に徳島市内が職場なので、被災後合流することがで  
きるか心配。徳島市内～小松島までの間の川に架かる橋の被災状況によっては、合流する  
ことが難しいかもしれないため。
- 津波と避難場所。

- 被災後、どのくらいの期間で元の生活に戻ることができるのか。避難場所がはたして安全な場所なのか。
- 被災時、家族が別々の場所に居た場合の連絡がうまくできるか。予定通り集合ができるかどうかその時にならないと分からないのが心配です。
- 津波対策
- 何もかも心配です。
- 家族と一緒に居るときに地震があれば大丈夫ですが、それぞれが違う場所で居るときにどのような状況になっているかわかりません。想定はあくまで想定なので、その時に最善の行動をできるように、いろんなシミュレーションを考えて家族で話し合いをしなければいけないと思っています。
- 食料をどれだけ用意したら良いのかわからない。
- 備蓄品を準備して何年も経ってしまっている。家族がそれぞれに違う場所に居たときが不安である。
- いつ、何が起きるか分からない時代なので、一日一日を大切に感謝を忘れず過ごしたい。命が一番大切で自らの命も大切だが、周りの困ってる人が居れば手を差し伸べるくらいの気持ちも持っていてほしい。
- 自分の命を守るために最善を尽くす。
- 電気がない生活ができるかどうか心配。トイレが無い生活ができるかどうか心配。
- 道路の寸断及び避難タワーがないので早急に逃げるところが無い。
- 自分の命は自分で守ることの大切さ。普段から防災意識を持って生活することが大事。
- 津波がとても心配です。港に近いところに住んでいるので、地震直後にちゃんと高いところへ行くことができるのか不安です。
- 今居る場所からだったらどこに逃げるかなど。シューズで逃げる。
- 家族がバラバラなときに被災した時、うまくみんなに会えるか心配。上記・問3について早急に話し合おうと思います。小学校では被災時集団で避難する場所が決まっており、自分の安全を確保してからお迎えに行くようになっています。中学校では被災時どのようになっていますか？
- 津波について対策等を心配している。
- 小学校など建物が丈夫な避難所に避難したいが、自宅より土地が低いところにあるため、津波で浸かりそう。
- 家族が皆バラバラの時間帯に地震が起きたとき、連絡がつかない、安否が分からない場合が一番心配であり怖いと思います。
- 平日に家族と一緒にいない時に、津波や大地震が起こったら、再会できるまで不安でならないと思います。きちんと決めておきたいと思いました。
- 地震や津波がどこまで範囲が広くてどこまで強いのか分からないのが心配です。
- 避難場所は決めてはいたが、改めて家族で認識することができ良いきっかけとなったと思う。子どもたちだけで家にいることもあるので、備蓄品などのことも早急に準備をしておこうと思う。
- 家族が別々の場所にいる時に地震が起きた時、子どもたちが自分で考えて行動し、避難で

きるか心配。

○今回のアンケートのおかげで、家族でさらにじっくり話し合う機会が持てました。小松島市内に安心して避難できる場所が増えてほしいです。

○地震が起こった際、家族全員がバラバラで、かつ通学中等に起こった場合、とっさの判断が必要になると思います。自分一人の場合、学校or家の近い方へ避難するように言っています。

○日中は外にいるので津波のための高い広場の様な避難場所を作してほしい。

○自分で自分の命を守ることです。

○下校中に地震が起きた時にパニックにならずに避難場所へ行けるかが心配です。

○釜石の中学生が活躍した話を聞いて、子どもの心の中にも自分の命は自分で守る、自分の命を守ることが大事な人の命を守ることにつながる、という熱い思いが芽生えているように感じました。必ず命を守る行動ができると思いました。地震の規模(揺れ、波浪)がどれくらいなのか？心配です。

○海が近い。

○地震に対する意識が低く、準備がきちんとできていません。実際に起こった時、どこまで冷静に対応できるのか不安ではあるので、最低限な中で最良の準備をしておかなければならないと思います。

○家族がバラバラの時に避難する場合、より一層心細くなってしまうのが心配。それぞれが無事が確認できるツールをもっと調べておかないといけないと思いました。

○やっぱり地震の後の津波が怖いです。6mもの高さがあるというのは怖いです。

○時間帯によって、それぞれ居る場所が違うので、いろいろな決め事をしておかななくてはならないと思うけど、まずその時、安全な所に避難するようにしておきたいです。

○被災後に家族の無事が確認できるか心配。

○家族が一緒にいない時に起こる地震が、親も子もパニックになると思うので、今一度避難場所や防災グッズ(備蓄品)を確認したい。

○南海トラフへの危機感が大事だと思いました。

○子どもだけが家に居る時に地震が来たらと思うと心配。

○子どもたちの行動範囲も広がり、県外で暮らす子どももいるので、居場所確認、安全確認を素早くとれるかが心配。再度、避難場所や連絡の取り方など話し合いたい。

○津波が来たら逃げれるかどうか、家の崩壊や流されないかが心配。生きているかどうか…。飼っている犬のことが心配。

○千代小を避難場所に決めているが、トイレ等老朽化が進んでいるところが多いので、避難生活ができるのかが心配です。

○備蓄品について各自が必要なものを入れておく(全員が同じものではない)。171の使い方を全員が知っておく。近くに丈夫な建物(津波からの避難場所)が少ないこと、家族の安否確認ができるかが心配。想定はあくまでも想定なので、津波からの避難はより高いところを目指すことが大事。

○備蓄品を持ち出せるか心配。

○家の近くで被災したら、山の上に登ること。離れている場合は高いところに逃げて、津波がこないことを確認してから児安公民館に避難すること。

○いつ起こるかわからない災害に、日頃から物と心の準備をしておくことの大切さを話しまし

た。

○学校や仕事・遊びで小松島にいない時、どうやって帰ってくるか、携帯を持っていない子の所在確認が難しい。とにかく一人でも行動、高いところへ逃げること。

○平屋のために揺れには強いが津波が来たら終わり。修復は不可能だと思うので、住居が心配。各自、持ち出せる担当をとりあえず決めている。食糧、防寒具等。

○家族が離ればなれになるかもしれないので心配です。

○年に2回、地域での避難訓練にも参加し、地区ごとの防災訓練にも参加し、日頃は少し意識をしていますが、実際に災害が起きた時にどれだけの平常心を保ち、動けるかが心配です。普段は分かっているつもりでもパニックになると思うので、訓練に参加しているという事だけで安心せず、普段から常に防災意識を持ち、動けるように心がけたいです。家の近くに大きな川があるのでその氾濫も心配です。

○自宅が海に近いので常時津波が心配だなと話しています。いつ起こるか分からない不安と向き合っています。それぞれの場所で避難しても、必ず連絡をとるというシュミレーションは話し合いました。(ここにいますという連絡です)

○学校に行っている時や、家族で家に居る時は地震が起きたらどう行動するか、お父さんが仕事柄、不在になるのでお母さんの言うことを聞いて落ち着いて行動するなどいろいろと話し合いました。我が家はペットもいるので、どうするかなどもまだまだ避難する課題が沢山あるなど話もできました。家族も多いので、備蓄品も何日分用意するかなどもまだまだ話し合いが必要でした。

○「想定にとられるな」、「最善を尽くせ」、「率先避難者たれ」を実践できるようにずっと心に留めておきたい。

○家族が地震発生時にそれぞれ違う場所に居るとしたら、その時にどのように連絡し合うか？○巨大津波の想定以上の高さで来るか、小学校が避難場所で大丈夫なのかなと思います。

○いつか来る地震に備えてもっと色々決めておこうと思います。

○常に想定外は意識はしていますが、具体的にどこに避難するのが安全なのかを決めかねており、きちんと決められないままに年月が過ぎてしまっています。自宅が3Fということもあり避難しない方が安全なのか、自宅以上に高い建物はどこか、そこまでどのように避難するのか色々改めて家族で話し合っておきたいと思います。

○実際に起こった時、落ち着いて判断できるかどうか、家族がバラバラになった時会えるかどうか。

○災害は家に居る時とは限らないので、その時間、場所によって各自が考えよう。

○津波が心配です。海が近いのですぐに行動に移さないと間に合わないと思っています。「大丈夫だろう」と思わず、すぐに逃げようと話し合っています。

○津波の被害。

○津波や家が崩れること。

○近所に避難場所がない。

○災害時は両親ともに不在が想定されるため、子ども自身が自ら考え、自ら行動することが重要になる。しかし、まだ子どもであり、いざという時に自らの判断だけで対応することは困難なので、事前の取り決めをしっかりと行っていきたい。

- 家族がバラバラの時間帯に地震が起きてしまったら連絡が取れないということが不安。
- これから何が起こるか分からないため、対策を考えていきたい。
- 建物の倒壊。
- 南海トラフが起きた時に避難場所などを確認し、素早く避難したい。
- 津波が来る確率が高いので、できるだけ高いところに避難するように。
- 家が海に近い。
- 備蓄品を準備しようと思った。
- 海が近いので早く決めたいと思います。
- 自分の命は自分で守ることの大切さを学びました。地震後、もし子どもたちだけになった時に生きていけるか心配。
- 家族で避難訓練をしたことがありますが、いい避難場所がないことが分かり、まだ決まっています。近くにホテルができるのでそこにしようかと話し合っています。
- 私たち家族は両親ともに被災時には出勤しなければならないので、家族を優先することができないことはずっと伝えてきたことで、何かあればどうしなさいと常に話をしていたつもりですが、いざとなった場合、子どもだけで判断(何も気にする子となく避難することができるのか、家族を待ってしまいがちだけど待たずに一人で避難できるのか)できるかどうか心配です。
- 日頃から防災ハザードマップを確認したり、防災グッズを用意しておく必要があることを再認識することができました。
- 津波が来る前に逃げることができるのか。
- いつ来るか分からない南海トラフ地震、日々とても不安です。一番心配なのは、家族が別々の場所にいる時に、地震が起きてしまうことです。家族一緒に避難できないことは本当に心配です。ですが、一緒にいない時に起こる可能性はとても大きいので、今回のように家族で話し合う事が大切だと思いました。備蓄品はお茶などの飲み物やクッキーなど用意していますが、すぐに持ち出せる用にしていないので、この機会に準備したいです。
- 震災がいつ起きるかわからないので、家族が落ち合う場所や避難の場所を覚える用に定期的に話しあったり、訓練したいと思います。
- 小松島中学校の避難場所が恩山寺だということを聞いて、少し不安になりました。大丈夫でしょうか。
- その時の場所、状況を冷静に考え、とにかく避難すること。自分で自分の命を守ることが大事。
- 避難場所を小松島高校にしているが、想定以上の津波が来ることも予想されるため、本当にその場所で大丈夫なのか不安。
- 家族がバラバラになっても一人で逃げる。
- 連絡手段。
- 慌てないで行動し、自分自身の安全と共に周りの人への声かけもできたらいいということを話し合いました。
- とにかく逃げる。引き返さない。高齢者が逃げ切れるかが心配です。家族で避難訓練をする。講演会の内容を家族に伝えてくれて、改めて防災について考え直すことができました。
- 備蓄品がまだ準備できていないので早く準備したい。



- 避難場所は自宅に一番近い場所にしか受け入れてもらえないことがありますか？
- 避難場所は決めているけれど、家が倒壊したり、備蓄品を取り出せない状態になったら身一つになるので不安。日中、バラバラの時に災害が来て、合流できるかどうか不安。
- 防災については定期的に家族で確認し合うことが大切だと改めて感じた。
- 昼間、みんなバラバラの時にどうするのが決めないといけない。夜間、地震が来ても津波で逃げるような高いところがないのが不安。
- 早く避難場所、集合場所を決め、備蓄品を準備しておこう。
- 地震はいつでもどこにいる時に起こるかかわからないので、その状況に応じて各自、落ちついて自分の命を守る行動を取ることが大切だという話をしました。
- 準備が完璧にできていないのでしっかり話し合っ準備しておこうと思いました。
- 「津波でんでんこ」とにかく高いところへ各自逃げて命だけは守ろう！！
- 学校の帰り道で地震が起きた場合、家で子どもしかいない時に地震が起きた場合について。
- いつ起こるかかわからない災害に対して、生活必需品を備えていかないとと思いました。心構えもしておかなければいけないと思いました。
- 自宅が海の近くにあるので、海から離れたところの安全な場所の確保や、避難場所までの移動の時間がどのくらいかかるか心配です。
- 職場や学校などで被災したり、家族がそれぞれ別々な場所で被災した場合に、家族と連絡が取れるか、安否確認ができるかが不安です。
- 子どもから講演の内容を聞きました。子どもはもちろん、親にとっても勉強になり、改めて防災教育の大切さを感じました。
- まだ、話し合えていません。
- 勝浦川が氾濫したら済んでいる地域一帯が水没する可能性がある。
- 液状化。
- 小松島では避難する場所が少ない。家に近い避難する場所は土地が低く、水がたまりやすい。地震の時にも津波が来ても逃げられる高い建物や場所が遠い。
- 家族が全員在宅の場合は避難等に関してはあまり心配ないと思っているのですが、日中や休みの日等はそれぞれが出かけていたりすると避難場所などが即時にわからない状況になると思うので、子どもの判断で正しい行動がとれるのか不安に思います。
- 金銭面、ペット等。
- いざという時の連絡方法や避難場所を再度確認しておくことや、非常持ち出し袋のチェックをそれぞれに確認しておくこと。
- 被災時には、何よりも身の安全を考え、冷静に判断できるように常に心に留めておかなければいけないと感じました。
- 勝浦川が氾濫すると…不安です。
- 家族バラバラ別の場所で被災した場合、連絡手段がなくなるのが怖い。学校でもスマホ等を持たせてもらえるといいと思う。
- いつどこで起こるか分からないのでそれぞれが安全な場所にちゃんと避難できるかが心配。
- 逃げる場所を考えておく。
- 津波が心配。

○家族で話し合う機会をこの様な形でいただきありがとうございました。スマホで見た釜石市の映像等はなかなか“自分たちならどうする？”と考えることすらできないほどショックな映像でした。その中であって、中学生のとった判断と行動はすごいと思います。日頃から危機感を持って、学校・家庭・職場等で“もし今地震が来たら”どうするのか？その場の状況等から想定し判断できるように話し合ったり、声をかけたり、小さな子とを積み重ねていかなければいけないと思いました。

○今いる場所からだったらどこに逃げるか等。シューズで逃げる。

○家から海岸が近いので津波が心配。

○もし家族が違うところにそれぞれいた場合、連絡手段とかどうなるのかが心配。

○避難場所までたどり着けるか心配。

○備蓄品の消費期限を確認する良い機会となりました。「その状況下において最善を尽くせ」を念頭において行動したいと思います。

○自分の命を一番に考えて避難してほしいが、実際に行った時にできるかどうか(特に一人である時)心配。

○家族がバラバラの時間帯に地震が起きた時に集まる場所を決めていても集まることのできるのか心配です。

○自宅周辺の液状化。通学路で被災した時にきちんと対応できるか。天候不順の時の避難場所での過ごし方。避難場所や避難所の備蓄。避難所のキャパシティ。避難訓練や今回の講演会で、意外と子どもたちの方が防災意識や対応力が高い気がする。大人も意識の高い人は訓練に出向いたり、講演に行ったりしているが、割合が少ない。大人の防災意識の底上げが必要ではないか。